

平成29年度研究科横断型教育プログラム（Aタイプ）授業科目

開講方式	Aタイプ (研究科 開講型)	研究科名	工学研究科	カテゴリー	国際性・コミュニケーション科目群	横断区分	文理横断型				
授業科目名 (英訳)	国際標準と国際規格 (International Standards)			講義担当者 所属・職名・ 氏名	工学研究科・教授・河合潤	開講場所	吉田キャンパス 工学部物理棟 7階732室				
配当学年	修士 博士後期 専門職	単位数	2単位	開講年度・開講期	前期	曜時限	金3限 (13:00-14:30)	授業形態	講義・ 演習	使用言語	日本語
〔授業の概要・目的〕											
工業規格、物理単位、標準物質、交通系 IC カード、品質管理の国際規格、コンピュータインターフェースなどの規格制定の歴史的経緯と国際規格を統一することの意義と問題点について講述し、実際に受講生各自が選択した国際規格を輪講形式で調査発表する。国際規格制定の仕組みを講述し、一つの国際規格を制定するに際して、各自が候補となる規格を推薦し模擬的な交渉を一部英語によって行ない、産業の国際競争力と国際規格の関係を理解する。国際社会での交渉力修得の必要性を認識し、大学院修了後も、自主的、継続的に取り組む能力を養う。											
〔研究科横断型教育の概要・目的〕											
先進的な工業製品を国際市場で広めるためには、単に良いものづくりをすればよいという理系の発想だけでは不十分で、ビジネス的な発想や、国際交渉力、そのための語学力が必要であることを認識することが必要であり、国際規格を題材として、将来、国際的な場で活躍するための交渉力を学修する。このような国際的な発想は、国際会議における学説の発表や、国際特許取得などの面でも応用の場は広い。											
〔到達目標〕											
一学期間の講義と演習で身に着けることができる範囲は限られているが、ビジネス社会で日本を代表して交渉をおこなったり、省庁で指導する立場となった時に役立つための心構えや、大学院を修了して10年・20年後に実際にそのような場面に遭遇して実力を発揮できるような基礎を学修すること。											
〔授業計画と内容〕											
第1回 銑鉄一千万円事件と公定規格制定の意義。 第2回 品質管理の国際規格制定の歴史。 第3回 交通系 IC カード採用の経緯。 第4回 各種国際規格の紹介(電気通信, 化学分析, 機械要素)と制定方法。 第5回 表面分析の国際規格の実例と問題点。 第6回 著作権に関する注意と国際規格の著作権。 第7~9回 演習: 受講生による国際規格の調査発表。 第10回 国際会議英語と native 英語の違い。 第11~14回 模擬討論: 国際規格制定のための国際交渉術(一部英語)。 第15回 フィードバックと講評。											
〔履修要件〕											
特になし。											
〔成績評価の方法・観点及び達成度〕											
国際規格の調査発表1回と模擬討論への参加を評価対象とする。											
〔教科書〕											
教科書は指定しない。											
〔参考書等〕											
講義の準備として読むべき参考書は講義で指定する。											
〔授業外学修(予習・復習)等〕											
必要になったら、付属図書館で JIS 規格等のパスワードを聞いてダウンロードする。											
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕											
問合せ先: kawai.jun.3x@kyoto-u.ac.jp											